

4章 アプリケーション について

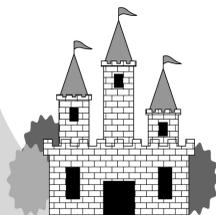
Libretto クイックスタートでやりたいことを探そう! ...	102
1 アプリケーションのヘルプを開く	104
2 アプリケーションの追加と削除	106

Librettoクイックスタートで、

スタートをクリック。Librettoクイックスタートを立ち上げると
→やりたいこと別に関連したアプリケーションが紹介されます。

インターネットを楽しむ

- ・ 簡単インターネット
- ・ Internet Explorer
- ・ インターネット翻訳 英日
- ・ インターネット翻訳 日英
- ・ 内蔵モデム用地域選択ユーティリティ



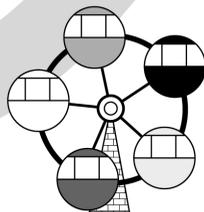
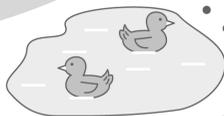
メールを使う

- ・ Outlook Express
- ・ Microsoft Outlook*
- ・ PostPet for Windows



音声

- ・ LaLaVoice



やりたいことを探そう！



便利なソフト

- ・ 駅すばあと
- ・ プロアトラス2001
- ・ Bookshelf Basic*
- ・ Acrobat Reader
- ・ Fn-esse



文書／表をつくる

- ・ Microsoft Word*
- ・ Microsoft Excel*



エンターテイメント

- ・ カラOK!



パソコンの設定

- ・ PC診断ツール
- ・ 東芝省電力



音楽を楽しむ

- ・ Windows Media Player



1

アプリケーションのヘルプを開く

アプリケーションの操作方法や、アプリケーションでできることを調べる場合は、ヘルプを使います。アプリケーションのヘルプには、いくつかの種類があり、それぞれ起動方法が異なります。

[ヘルプ] メニューから起動する

- 1 メニューバーから [ヘルプ] - [目次] をクリックする



(表示例)

[ヘルプ] ボタンをクリックする

- 1 画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする



(表示例)

[スタート] メニューから起動する

- 1 [スタート] → [プログラム] → アプリケーション名 → アプリケーションのヘルプをクリックする



(表示例)

? をクリックする

- 1 画面右上の ? をクリックする
ポインタが ? に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする
説明文がポップアップで表示されます。

2

アプリケーションの追加と削除

1 インストールとは？

インストールとは、必要なファイルなどをお使いのパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規にご購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、ご購入時にすでにインストール済みであることをプレインストール、アプリケーションを削除することをアンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーション&ドライバCD-ROMから、再インストールして使用することができます。



再インストールについて

➡『困ったときは 3章 5 アプリケーションを再インストールする』

2 アプリケーションを追加する

[アプリケーションの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [アプリケーションの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合があります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。



- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたは CD-ROM をセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[アプリケーションの追加と削除] アイコン () をダブルクリックする
- 3 [インストールと削除] タブで[インストール] ボタンをクリックする



(表示例)

この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

3 アプリケーションを削除する

アプリケーションを削除する方法を説明します。
アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よくご確認のうえ行なってください。



- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。



- アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ（アンインストーラ）が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』をご覧ください。

操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[アプリケーションの追加と削除] アイコン () をダブルクリックする
- 2 [インストールと削除] タブで、アプリケーション一覧から削除したいアプリケーションをクリックする

3 [追加と削除] ボタンをクリックする

表示されるメッセージに従って操作してください。



(表示例)

5章 モバイルしよう

- 1 モバイルする前に 112
- 2 バッテリーを充電する 114
- 3 省電力ユーティリティを使う 122
- 4 パスワードセキュリティ機能を使う 129
- 5 パソコンの使用を中断する
／簡単に電源を切る 136
- 6 外出先でインターネットをする 142

1

モバイルする前に

Librettoでモバイルするためには、あらかじめ準備しておくことや知っておいたほうがよいことがあります。

この章では、より快適にモバイルするための方法を紹介します。

■バッテリーを充電する

モバイルで使用するためには、あらかじめバッテリーの充電を完了しておく必要があります。

 詳細について ⇨ 「本章 2 バッテリーを充電する」

■省電力ユーティリティを使う

バッテリーで使用しているときに、消費電力を減らす設定を行なうことで、より長い時間モバイルすることができます。設定は、「省電力ユーティリティ」で行います。

 詳細について ⇨ 「本章 3 省電力ユーティリティを使う」

■パスワードセキュリティ機能を使う

モバイルで使用しているときは、第三者にパソコンを操作されないようにする必要があります。本製品では、「パスワードセキュリティ機能」を設定することができます。

 詳細について ⇨ 「本章 4 パスワードセキュリティ機能を使う」

■パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る

モバイルで使用しているときは、作業を一時的に中断することがよくあります。そのたびに電源を切ったり、入れたりするのではなく、「スタンバイ」や「休止状態」を使うと、中断時の作業がすばやく再現されるので便利です。

 詳細について ⇨ 「本章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

■外出先でインターネットをする

モバイルでインターネットや電子メールを使用する場合は、設定を変更する必要があります。また、使用後に設定を元に戻しておくことも忘れないでください。

 詳細について ⇨ 「本章 6 外出先でインターネットをする」

2

バッテリーを充電する

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。

ご購入時は、バッテリーはフル充電されていませんので、本製品を初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

本製品のマニュアル『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックをお使いになるときに守っていただきたい重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよくお読みになり、必ず指示をお守りください。



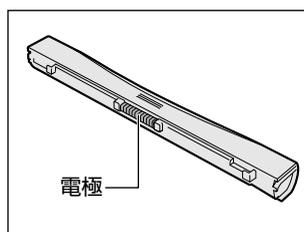
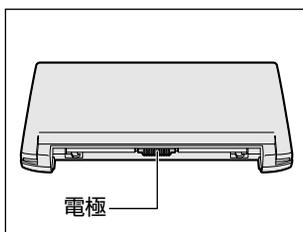
『安心してお使いいただくために バッテリーパックの取り扱いについて』

⚠ 警告

- ・バッテリーパックの使用時、充電中、保管時に異臭・発熱・変色・変形など異常が発生した場合は、すぐにパソコン本体から取りはずしてください。
- ・バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー（TOSHIBA バッテリーパック：PABAS009、大容量バッテリーパック：PABAL005）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

⚠ 注意

- ・バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- ・別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常と思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）を使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- ・バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- ・本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

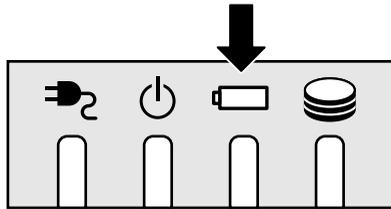


1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って途中で作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。

Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery  LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。



バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。Battery  LEDは次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none">・バッテリーが接続されていない・ACアダプタが接続されていない・バッテリー異常

タスクバーの [省電力] アイコンで確認する

タスクバーの [省電力] アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。

- ACアダプタを接続している場合



(表示例)

- バッテリ駆動の場合



(表示例)

- メモ**
- タスクバーに表示される「省電力」アイコン () の色は現在使用されている省電力モードにより変わります。
 - 東芝省電力ユーティリティ ([コントロールパネル] → [東芝省電力]) の [電源設定] タブの設定内容によっては、タスクバーに [省電力] アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの減少を示しています)
- 警告音 (ビーブ音) が鳴る

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
 - 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える
- ご購入時の設定では、対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

- お願い**
- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音でも Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、ACアダプタまたはバッテリーを接続しているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

■ 充電完了までの時間

状態	時計用バッテリー
ACアダプタまたはバッテリー接続	8時間以上



- 時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

2 バッテリーを充電する

ここでは、充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFF にかかわらず常時充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。



- バッテリーパックが極端に熱いか冷えていると、正常に充電されないことがあります。バッテリーを充電するには、10～30℃の室温で充電してください。

■ 充電時間

フル充電になるまでの充電時間の目安は次のとおりです。
(標準バッテリーパックの場合)

状態	充電時間
電源ON	約3時間以上
電源OFF	約3時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

■ 使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

次の時間は目安にしてください。

【充電完了の状態で使用した場合】

省電力モード	動作時間
ロングライフ	約3時間30分

(注) 当社使用のプログラムで計測

■ 使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。この場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

【フル充電した状態で電源を切った場合】

パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約2週間

-  ● スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短い
ため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

バッテリーを節約する

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

 休止状態 ⇨ 「本章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
- 省電力モードに設定する

 省電力設定 ⇨ 「本章 3 省電力ユーティリティを使う」

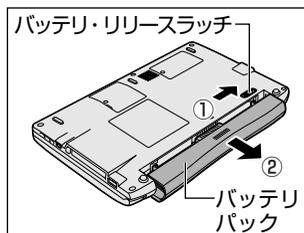
3 バッテリーパックを交換する



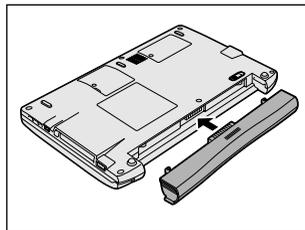
- バッテリーパックの取り付け/取りはずしの際には、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

取り付け/取りはずし

- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 [スタート] → [Windows の終了] をクリックする
- 3 [終了] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
Windows を終了して電源が切れます。
- 4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 6 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを取りはずす②



- 7 交換するバッテリーパックを、カチッという音がするまで、静かに差し込む



3

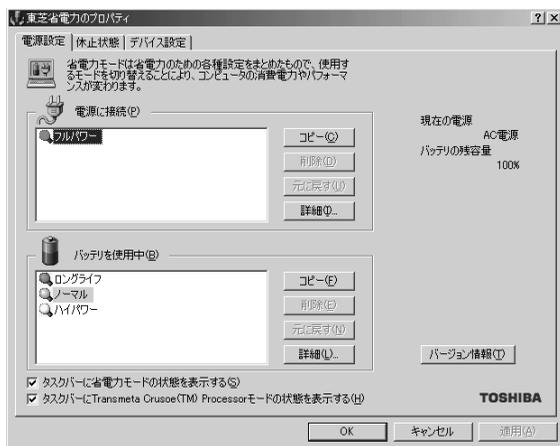
省電力ユーティリティを使う

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らすこと（ディスプレイの明るさを抑えるなど）で、より長い時間お使いいただけます。ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコン（）をダブルクリックする

[電源設定] タブ



(表示例)

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

■ [電源に接続] [バッテリーを使用中]

設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用になる省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] はACアダプタ接続/バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

●フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続] (ACアダプタを使用するとき) がこのモードに設定されています。

●ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

●ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中] (バッテリー駆動で使用するとき) がこのモードに設定されています。

●ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

 省電力モードの詳細設定 ⇨ 「本項 省電力モードの詳細設定」

【省電力モードの削除】

① 削除する省電力モードをクリックする

② [削除] ボタンをクリックする

[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

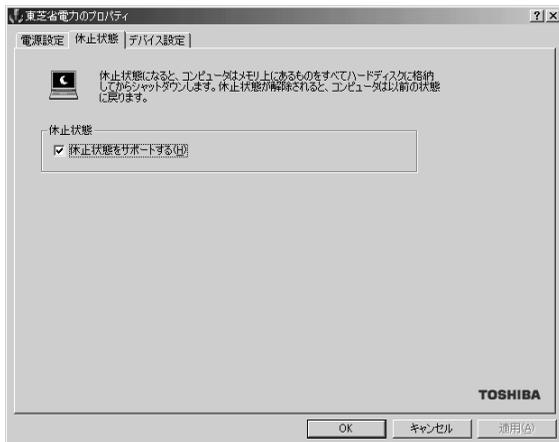
[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。チェックをはずすとアイコンは表示されません。省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンを右クリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを開くことができます。

【タスクバーにTransmeta Crusoe (TM) Processorモードの状態を表示する】

ここをチェックする () と現在のCPU周波数 (Transmeta Crusoe™ Processor) の状態を示すアイコンがタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。CPU周波数アイコンを表示させておくと、そのアイコンをクリックすることにより、CPU周波数を変更することができます。

【休止状態】 タブ

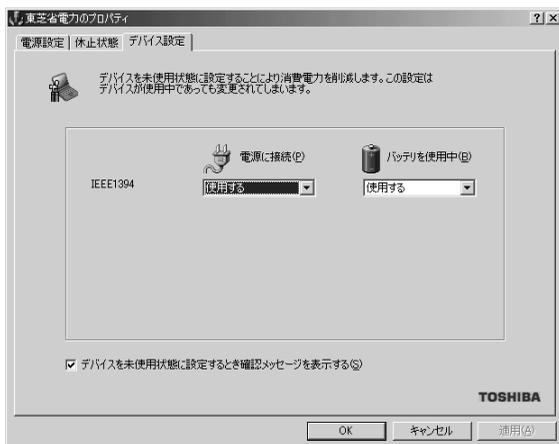
休止状態を使用するかしないかの設定を行います。



【デバイス設定】 タブ

i.LINK (IEEE 1394) 対応機器を使用するかしないか、を設定します。ACアダプタを使用しているときとバッテリーを使用しているときで、それぞれ設定ができます。

また、未使用状態に切り替えられたときに確認のメッセージが表示されるようにできます。

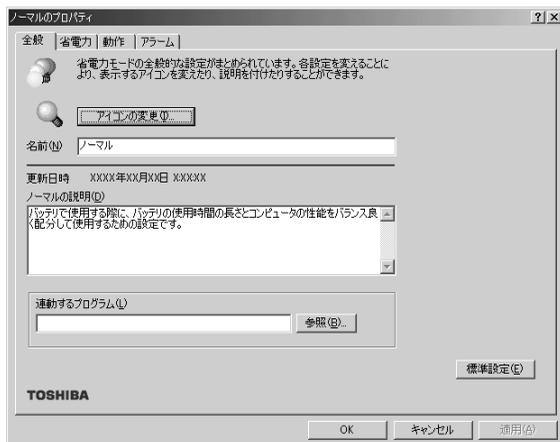


省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

■ 起動方法

- ① [電源設定] タブで利用したい省電力モード（フルパワー、ロングライフ、ノーマル、ハイパワー）を選択し、[詳細] ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。



(表示例)

■ [全般] タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

■ [省電力] タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

■ [動作] タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

次のような場合はスタンバイが無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

- ・ 誤った使いかたをしたとき
- ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- ・ バッテリーが消耗したとき
- ・ 故障、修理、電池交換のとき
- ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

●スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める

ここをチェックする () と、Windows のパスワードを設定している場合には、スタンバイや休止状態から復活するときに Windows パスワードが要求されます。



●ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。



●休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。

●増設メモリの取り付け/取りはずしをすると、休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

■ [アラーム] タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリーを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

詳しい操作方法を知りたいとき (ヘルプの起動)

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、[東芝省電力のプロパティ] 画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

4

パスワードセキュリティ機能を使う

1 パスワードセキュリティ機能について

本製品では、「パスワードセキュリティ機能」を設定できます。

- ・ユーザパスワード
電源を入れたときや休止状態から復帰するときに入力する
- ・スクリーンセーバーパスワード
スクリーンセーバーを解除するときに入力

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「****（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。

よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号（単独のキーで入力できる文字の一部）	- ^ @ [] ; : , . / （スペース）
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・単独のキーで入力できない（入力するときに $\text{\textcircled{S}}$ キーなどを使用する）文字 【例】 （バーチカルライン）、&（アンド）、 ~（チルダ）など ・¥（エン） $\text{\textcircled{¥}}$ キーや $\text{\textcircled{₪}}$ キーを押すと¥が入力されます。	

2 ユーザパスワードの設定

ユーザパスワードを設定すると、電源を入れたときや休止状態から復帰するときにパスワード入力が必要されます。

ユーザパスワードの登録/削除は、「東芝 HW セットアップ」で行います。

東芝 HW セットアップの起動方法

- 1 [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [東芝 HW セットアップ] アイコン () をダブルクリックする



- [コントロールパネル] 画面に [東芝 HW セットアップ] アイコンが表示されていない場合は、画面左の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。] をクリックしてください。

ユーザパスワードの登録

- 1 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする



- 2 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードは大文字、小文字を区別しません。



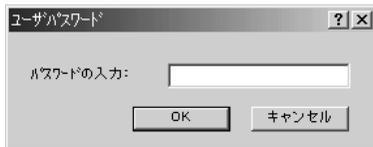
- 3 [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする



- 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

ユーザパスワードの削除

- 1 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- 2 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする



- 3 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

-  ● パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。
この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行なってください。

キーフロッピーディスクの作成

ユーザパスワードの設定後、キーフロッピーディスクを作成できます。キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。

1 電源を切る

2 別売りのフロッピーディスクドライブを接続し、書き込み可能状態のフロッピーディスクをセットする

3 電源を入れる

画面に「Password =」と表示されます。

4 設定したとおりにパスワードを入力する

5 **(Tab)**キーを押す

画面に「Insert password service disk if necessary. Are you sure?(Y/N)」と表示されます。

6 **(Y)**キーを押す

画面に「Password Service Disk Type?(1:2HD, 2:2DD)」と表示されます。

7 **①**または**②**キーを押す

お使いのフロッピーディスクのタイプをご確認のうえ、キーを押してください。

画面に「Remove the password service disk, then press any key.」と表示されます。

8 何かキーを押す

Windows が起動します。



- キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよくご確認のうえ、ご使用ください。

3 ユーザパスワードの入力

ユーザパスワードが設定されている場合、電源を入れると、画面に「Password=」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

- 1 設定したとおりにパスワードを入力し、**(Enter)**キーを押す
パスワードは大文字、小文字を区別しません。

 ● パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。

- 1 電源を入れる
画面に「Password =」と表示されます。
- 2 別売りのフロッピーディスクドライブを接続し、作成したキーフロッピーディスクをセットする
- 3 **(Enter)**キーを押す
フロッピーディスクから読み込みがはじまり、Windows が起動します。
設定したパスワードは解除されます。

 ● キーフロッピーディスクを作成していなかった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は有償になります。また、そのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 スクリーンセーバーパスワード

(Fn)+(F1)キーを押すと、「模様なし」のスクリーンセーバーが実行され、画面が暗くなります。

スクリーンセーバーを解除するには、何かキーを押すか、アキュポイントIIの操作を行なってください。

スクリーンセーバーのパスワードを設定すると、スクリーンセーバーを解除するときにパスワード入力が必要されます。

スクリーンセーバーのパスワードは、「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブで設定します。

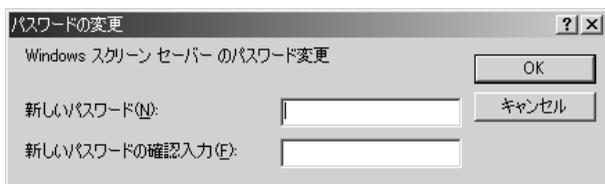
スクリーンセーバーパスワードの登録

- 1 [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [画面] アイコン () をダブルクリックする
- 3 [スクリーンセーバー] タブでスクリーンセーバーを選択する
- 4 [パスワードによる保護] をチェックし、[変更] ボタンをクリックする



(表示例)

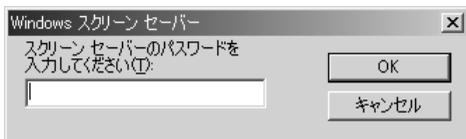
- 5 [パスワードの変更] 画面の [新しいパスワード] にパスワードを入力する



- 6 [パスワードの変更] 画面の [新しいパスワードの確認入力] にもう1度パスワードを入力する
- 7 [OK] ボタンをクリックする
- 8 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

スクリーンセーバーパスワードの入力

スクリーンセーバーの動作中にキー入力やアキュポイントⅡの操作を行うと、パスワード入力画面が表示されます。



- 1 設定したとおりにスクリーンセーバーパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- 大文字/小文字は区別されます。パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

5

パソコンの使用を中断する ／簡単に電源を切る

1 スタンバイ／休止状態

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。パソコンの使用を中断したときの状態をメモリに保存するのが「スタンバイ」、ハードディスクに保存するのが「休止状態」です。再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。



- スタンバイ中や休止状態では、周辺機器（バッテリーや増設メモリなど）の取り付け／取りはずしは行わないでください。データの消失や感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。データが消失するおそれがあります。

スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

1 [スタート] ①→ [Windows の終了] ②をクリックする



(表示例)

2 ▼ ボタンをクリックし①、[スタンバイ] を選択する②



3 [OK] ボタンをクリックする

メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

4 Power ① LED がオレンジ点滅しているか確認する



- スタンバイ状態は、表示画面が消えていても電源が入っています。スタンバイ状態でお使いになる場合は、次の「警告」や「注意」の指示を必ずお守りください。

⚠ 警告

- ・ パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

⚠ 注意

- ・ スタンバイ中は、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ中は電源が入っていますので、増設メモリの取り付け／取りはずしを行うと、感電、故障のおそれがあります。

休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現することができます。パソコンをバッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることをおすすめします。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックし、[OK] ボタンをクリックする

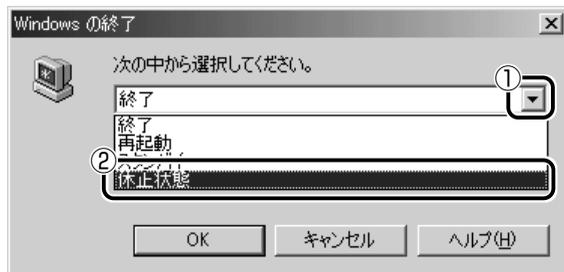
休止状態が有効になります。

2 [スタート] ① → [Windows の終了] ② をクリックする



(表示例)

3 ▼ ボタンをクリックし①、[休止状態] を選択する②



4 [OK] ボタンをクリックする

[スタート] メニューから以外にも、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときにもスタンバイまたは休止状態にすることができます。その場合は、設定が必要です。



- 休止状態にするときは、メモリの内容をハードディスクに書き込んだ後に、電源が切れます。Disk LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。



詳細について

➡ 「本節 2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

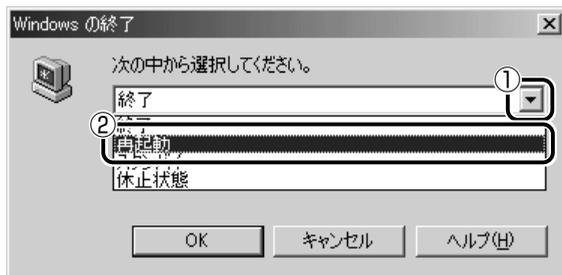
再起動

いったんWindowsを終了した後、すぐにもう1度起動することを再起動といいます。パソコンの設定を変えたときや、パソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。

1 [スタート] ①→ [Windowsの終了] ②をクリックする



2 ▼ ボタンをクリックし①、[再起動] を選択する②



3 [OK] ボタンをクリックする

2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする ()
- ③ [適用] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

 ● (Fn)+(F3) キーを使用して、電源スイッチを押したときの動作を切り換えることができます。

 詳細について ⇨ 「1 章 7 キーボード」

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じると電源を切る、またはパソコンの使用を中断することを、パネルスイッチ機能といいます。

休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする (☑)
- ③ [適用] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

1 ディ스플레이を閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する

 ● 手順1の③で [何もしない] を選択すると、パネルスイッチ機能は働きません。

2 ディ스플레이を閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の③で [スタンバイ] または [休止状態] を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

6

外出先でインターネットをする

外出先でもインターネットや電子メールを利用することができます。
外出先でインターネットに接続するには、次のような方法があります。

■ PHS、携帯電話を使う

PHS、携帯電話を接続してインターネットに接続できます。
LibrettoにPHS、携帯電話を接続する場合は、別途、接続機器（別売り）が必要です。
接続については詳しくは、『PHS、携帯電話に付属の説明書』や『接続機器に付属の説明書』をご覧ください。

■ モジュラーコネクタ付きの公衆電話

公衆電話の中には、モジュラーコネクタが用意されているものがあります。
「アナログ」と書いてあるモジュラーコネクタにモジュラーケーブルを接続します。

■ インターネット接続の設備が整っている場所

ホテルのビジネスルームなどでは、モジュラーケーブルを接続するための電話回線が用意されている場合があります。

モバイルでインターネットや電子メールを使用する場合は、設定を変更する必要があります。また、使用後に設定を元に戻しておくことも忘れないでください。

設定を変更する前に、次の点を確認してください。

- ・ 外出先の電話回線のダイヤル方法（トーンまたはパルス）
- ・ 外出先の電話回線の市外局番

どちらも現在の設定と同じ場合は、設定を変更する必要はありません。

外出先のダイヤル方法を確認する

最初に、外出先の電話回線のダイヤル方法（トーンまたはパルス）を確認します。

1 外出先のダイヤル方法を確認する

現在の設定同じ場合は、特に設定を変更する必要はありません。
現在の設定と異なる場合は、「設定の変更」を行います。

外出先の市外局番を確認する

次に、外出先の電話回線の市外局番を確認します。

■ 現在の設定と同じ市外局番の場合

特に設定を変更する必要はありません。

■ 現在の設定と異なる市外局番の場合

「設定の変更」を行います。

現在の設定のままインターネットに接続することもできますが、プロバイダのアクセスポイントまで電話料金がかかりますので、外出先により近いアクセスポイントに変更することをおすすめします。詳しくは、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。

設定の変更

1 [コントロールパネル] を開き、[テレフォニー] をダブルクリックする

[ダイヤルのプロパティ] 画面が表示されます。

2 発信元の情報を変更する

お使いになる電話回線について、次の点を確認してください。

●登録名

外出先の設定を新たに登録したい場合は [新規] ボタンをクリックしてください。

●発信元の市外局番

●外線発信番号

●ダイヤル方法

3 [OK] ボタンをクリックする

次に、接続先の電話番号の設定を行います。

1 [スタート] → [設定] → [ダイヤルアップネットワーク] をクリックする

[ダイヤルアップネットワーク] 画面が表示されます。

2 接続に使用するダイヤルアップアイコンを右クリックし、表示されるメニューの [プロパティ] をクリックする

[XX (接続先)] 画面が表示されます。

3 [全般] タブで [電話番号] 欄に、これから使用したいアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力する

4 [XX (接続先)] 画面で [OK] ボタンをクリックする

外出先での使用が終了した後は、設定を元に戻しておく必要があります。「普段利用する設定」と「外出先の設定」を、どちらも保存しておき、必要に応じて使い分けると便利です。

6 章 Libretto を拡張する

- 1 周辺機器を接続する前に 146
- 2 PC カードを接続する 150
- 3 USB 対応機器を接続する 153
- 4 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する ... 155
- 5 マイクロホンを接続する 158
- 6 ヘッドホンを接続する 159
- 7 CRT ディスプレイを接続する 160
- 8 メモリを増設する 165

1

周辺機器を接続する前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。周辺機器の例です。周辺機器には、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

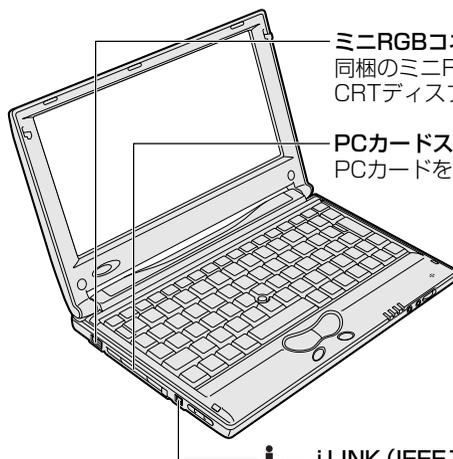
- プリンタ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵済み）
- PC カード
- モデム（本製品では内蔵済み）
- スキャナ
- フロッピーディスクドライブ
- マウス
- デジタルカメラ
- 増設メモリ

1 本製品に接続できる周辺機器

本製品には次のような周辺機器を接続できます。周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているかご確認のうえ、ご購入ください。



- **インタフェース** ● 機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のこと。



ミニRGBコネクタ (⇒ P.160)
同梱のミニRGBケーブルを接続し、
CRTディスプレイを接続します。

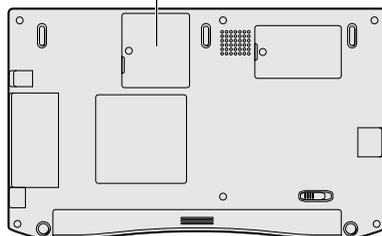
PCカードスロット (⇒ P.150)
PCカードを接続します。

i 5400 i.LINK (IEEE1394) コネクタ (⇒ P.155)
i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続します。

● USBコネクタ (☞ P.153)
USB対応機器を接続します。



増設メモリスロット (☞ P.165)
メモリを増設します。



2 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

■ プラグアンドプレイに対応している場合

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。周辺機器を接続すると、Windows がドライバの有無をチェックします。その周辺機器に対応したドライバが見つかった場合は、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの追加ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



(表示例)

■ プラグアンドプレイに対応していない場合

[新しいハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書をご覧ください。ドライバのインストールや必要な設定を行なってください。



● [新しいハードウェアの追加ウィザード] の起動方法

[コントロールパネル] を開き、[ハードウェアの追加] をダブルクリック

3 取り付け／取りはずしのご注意

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。

⚠ 注意

- ・ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。



- **ホットインサージョン** ● 電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うこと。



- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

■ パソコン本体へケーブルを接続するとき

ケーブルを接続するときは、次の点に注意して、接続してください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

2

PC カードを接続する

目的に合わせた PC カード^{ピーシー}を使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

PC カードには、次のようなものがあげられます。

- ISDN カード
- スマートメディアアダプタカード
- SCSI カード
- フラッシュメモリカード
- 無線 LAN カード など

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

お使いの PC カードがホットインサージョンに対応しているか、詳しい使いかたなどについては『PC カードに付属の説明書』をご覧ください。



- PC カード接続のハードディスクドライブまたは CD-ROM ドライブの動作中に、通信またはサウンドの再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。

- ・ 通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイヤルに失敗する
- ・ サウンド再生時に音飛びが発生する

使用できる PC カードのタイプ

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 注意

- ・ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- ・PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- ・PCカードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

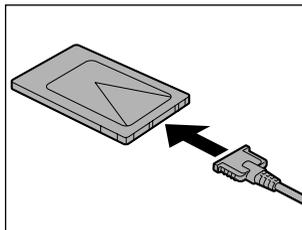


- 取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

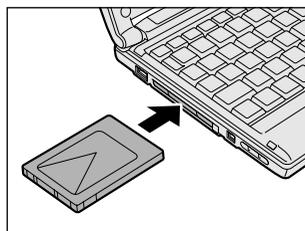
取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。



2 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する



カードは、無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。



カードの接続および環境の設定方法 ⇨ 『PCカードに付属の説明書』

取りはずし

1 PCカードの使用を停止する

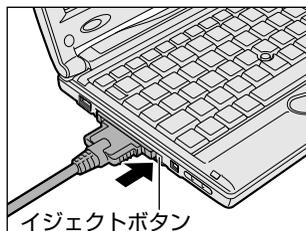
- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) の停止] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする



(表示例)

2 取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す

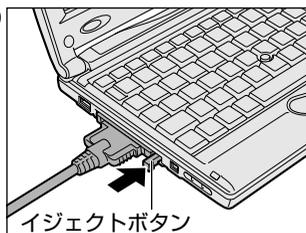
イジェクトボタンが出てきます。



3 もう 1 度取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押し続けてください。

カードが少し出てきます。



4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



- カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

3

USB 対応機器を接続する

ユーエスピー

USB コネクタに接続します。

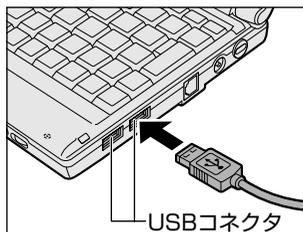
USB 対応機器は、電源を入れたまま、取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあげられます。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

取り付け

- 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込むコネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む
この手順が必要ない機器もあります。



参照 3 USB 対応機器についての詳細 ⇨ 『USB 対応機器に付属の説明書』



- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- 今後出荷される USB 対応機器については、動作確認ができていないためすべての機器の動作を保証することはできません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。



- USB コネクタの数が足りない場合は、市販されている USB ハブを使用してください。ハブを使うと最大で 127 台の周辺機器をつなぐことができます。接続できる最大数はハブによって異なります。

取りはずし

- 1 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

4

i.LINK (IEEE 1394) 対応機器を接続する

アイリンク アイトリプルイーイチサンキューヨン

i.LINK (IEEE 1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。
i.LINK (IEEE 1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあげられます。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応 CD-RW ドライブ など

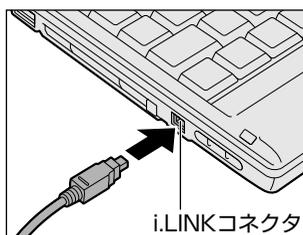
i.LINK (IEEE 1394) 対応機器のご使用について

i.LINK (IEEE 1394) 対応機器を使用する場合、次の注意事項を必ず守ってお取り扱いください。

- i.LINK 対応機器を使用しデータ転送を行う場合、必ずデータ（データファイルや、ビデオカメラで撮影したテープ）のバックアップをお取りください。特に動画データ転送時は、パソコンの処理に負担がかかり、状態によってはコマ落ちが発生する場合があります。また、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時にはご注意ください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラ等を使用し、データ通信を行なっている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。
i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしはデータ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行なってください。

取り付け

- 1** ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2** ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む



- i.LINK 対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行なっておりません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証いたしかねます。
- ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400 対応）をご使用ください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- 3m 以内の長さのケーブルをご使用ください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行なった場合、データの内容は保証いたしかねます。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

取りはずし

- 1 タスクバーの「ハードウェアの取り外し」アイコン () をクリックする
- 2 取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- 3 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- 4 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

 参照  i.LINK 対応機器について  『i.LINK 対応機器に付属の説明書』

-  **メモ** ● デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1～3 は必要ありません。

i.LINK によるネットワーク接続

システム (OS) が Windows Me で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。

- 1 ケーブルの一方のジャックをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のジャックを接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

 参照  ネットワークの設定  『Windows のヘルプ』

-  **メモ** ● i.LINK コネクタが用意されているパソコンでも、機種によっては接続できない場合があります。

5

マイクロホンを接続する

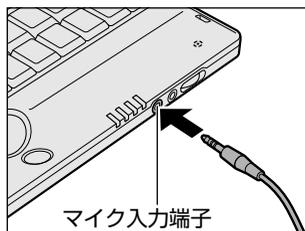
マイク入力端子に接続します。

マイクのプラグは、直径 3.5mm φ モノラルミニジャックタイプをお使いください。

接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。



6

ヘッドホンを接続する

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプをお使いください。

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「ボリュームコントロール」で調節してください。



● ボリュームコントロールの起動方法

タスクバーの [音量] アイコン () をダブルクリック

⚠ 注意

- ・ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。
耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えるおそれがあります。



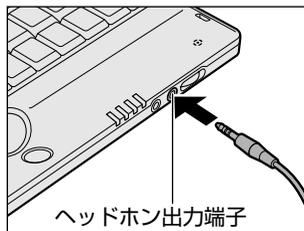
● 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。



7

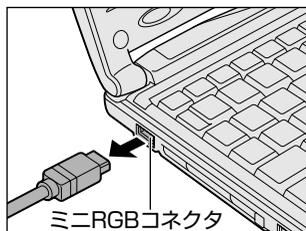
CRT ディスプレイを接続する

同梱のミニ RGB ケーブルを使い、CRT ディスプレイを接続します。CRT ディスプレイは、パソコンの電源を切ってから接続してください。

接続

- 1 ミニ RGB ケーブルのプラグをミニ RGB ケーブル接続コネクタに差し込む

取りはずすときは、ミニ RGB ケーブル接続コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。



- 2 CRT ディスプレイのケーブルのプラグをミニ RGB ケーブルの RGB コネクタに差し込む

CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れます。

- 3 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする

または、

デスクトップ上の何も無いところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

- 4 [設定] タブで [詳細] ボタンをクリックする

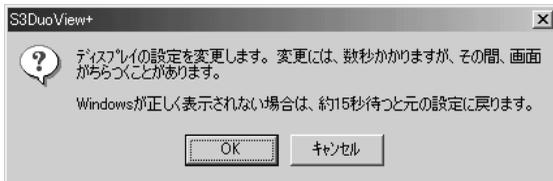
[S3 Inc. Savage/IX w/MV のプロパティ] 画面が表示されます。

- 5 [S3DuoView+] タブの [表示デバイス選択] で [CRT] を選択する



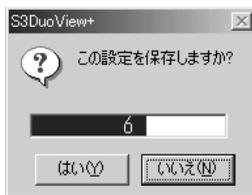
- 6 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



- 7 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が CRT ディスプレイに表示されます。



- 8 [[はい] ボタンをクリックする

- 9 [OK] ボタンをクリックする

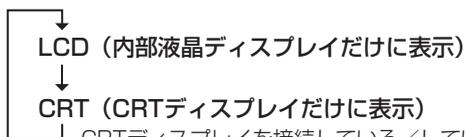
CRT ディスプレイまたは内部液晶ディスプレイだけに表示する

次の表示方法の場合は、設定は必要ありません。

- CRT ディスプレイだけに表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

■ (Fn) + (F5) キーを使う

(Fn) キーを押したまま、(F5) キーを押すたびに切り替わります。



CRT ディスプレイを接続している／していないに関わらず、この状態に切り替わります。CRT ディスプレイが接続されていない場合も、内部液晶ディスプレイには何も表示されませんので、ご注意ください。

-  ● CRT ディスプレイに表示した状態でパソコンの電源を切り、再びパソコンの電源を入れた場合、画面は内部液晶ディスプレイに表示されます。
- (Fn) + (F5) キーで切り替えてください。

-  ● 次のようなときには、表示方法を切り替えしないでください。データが消失するおそれがあります。
- ・データの読み込みや書き込みをしている間
エラーになります。データのやり取りが完了するまで待ってください。
 - ・通信を行なっている間
エラーになります。通信が完了するまで待ってください。

CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに表示する

CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイの両方の画面で 1 つのデスクトップを表示できます (マルチディスプレイ)。

次の手順で設定できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [設定] タブで、「モニタ 2」をクリックする



次の画面が表示されます。



- 3 [はい] ボタンをクリックする
- 4 [OK] ボタンをクリックする

■ 設定を解除する方法

- 1 [画面のプロパティ] の [設定] タブで、「モニタ 2」を右クリックする
- 2 使用可能のチェックをはずす
- 3 [OK] ボタンをクリックする

表示について



- CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。



- 省電力機能により CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはアキュポイント II の操作により表示が復帰します。このとき、表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。
- 1280 × 600 ドットの解像度で動画ファイル (AVI、MPEG ファイルなど) をフルスクリーン再生した場合、画像の一部が表示されません。
- 1280 × 600 ドットの解像度で CRT 表示した場合、表示画面の上下に黒い帯 (非表示エリア) ができます。
- 本製品の内部液晶ディスプレイの解像度は、1280 × 600 ドットです。CRT ディスプレイに表示する場合は、1280 × 1024 ドット対応の CRT ディスプレイをお使いください。
1280 × 1024 ドットに対応していない CRT ディスプレイをお使いの場合は、CRT ディスプレイの解像度に合わせて、内部液晶ディスプレイの解像度を変更してください。
また、モニタ 2 の色数は、出荷時は「256 色」に設定されています。必要に応じて色数の設定を変更してください。



ビデオモードについて ⇨ 「付録 1-2 サポートしているビデオモード」
画面の設定の変更について ⇨ 《オンラインマニュアル》

8

メモリを増設する

増設メモリスロットに 128MB までの増設メモリを取り付けることができます。増設メモリは、本製品で動作が保証されているものをご購入ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 警告

- ・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。

⚠ 注意

- ・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- ・次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。
 - ・スタンバイ中
 - ・電源を切った直後
電源を切った後 30 分以上たってから行うことをおすすめします。
- ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。



- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

■ 静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行なってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

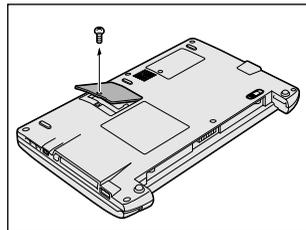
取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす



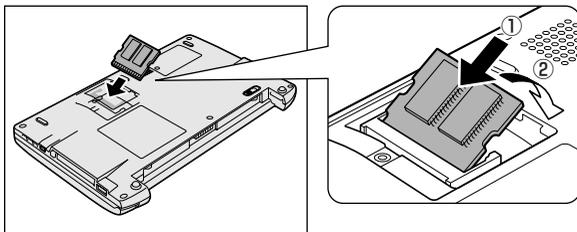
参照 3 バッテリーパックについて ⇨ 「5章 2-3 バッテリーパックを交換する」

- 4 増設メモリカバーのネジをはずし、増設メモリカバーをはずす



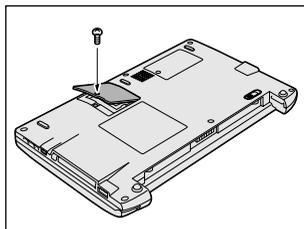
5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。



6 増設メモリカバーをはめ、手順4ではずしたネジをとめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。



7 バッテリーパックを取り付ける

 **参照** バッテリーパックについて ⇨ 「5章 2-3 バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか「PC診断ツール」で確認してください。



● PC診断ツールの起動方法

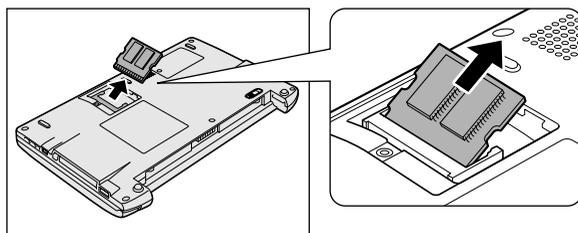
[スタート] → [プログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC診断ツール] をクリック

取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす

 バッテリーパックについて ⇨ 「5章 2-3 バッテリーパックを交換する」

- 4 増設メモリカバーのネジをはずす
- 5 増設メモリカバーをはずす
- 6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす
斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。



- 7 増設メモリカバーをはめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。
- 8 手順4ではずしたネジでとめる
- 9 バッテリーパックを取り付ける

 バッテリーパックについて ⇨ 「5章 2-3 バッテリーパックを交換する」

7章 日常の取り扱いとお手入れ

1 日常の取り扱いとお手入れ.....	170
---------------------	-----

1

日常の取り扱いとお手入れ

⚠ 注意

- ・お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードを AC 電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- ・機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

パソコン本体

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5 ~ 35℃、湿度 20 ~ 80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所
非常に高温または低温になる場所
急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）
強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）
ホコリの多い場所
振動の激しい場所
薬品の充満している場所
薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。

電源コード

電源コードのプラグを長期間に渡って AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはほこりを拭き取ってください。

キーボード

乾いた柔らかい素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を堅くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは交換を依頼してください（有償）。

液晶ディスプレイ

■ 画面のお手入れ

- 画面の表面には偏向フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。

表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。

- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。

液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

■ サイドライト用 FL 管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにサイドライト用 FL 管（冷陰極管）が内蔵されています。サイドライト用 FL 管（冷陰極管）は、ご使用になるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。有償にて交換いたします。

アキュポイントⅡ（ポインティング装置）

アキュポイントⅡは、ハンドクリームや油などのついた手で操作したり、油性の液体をつけたりしないでください。操作時にすべりやすくなったり、アキュポイントキャップが劣化する（溶ける）おそれがあります。アキュポイントキャップがすりきれたら取り換えてください。携帯電話、無線機など電波を発生する機器が近くにあるときにマウスポインタが移動する場合があります。その場合は、電波を発生する機器を離してください。

■ キャップの取り換え

予備として2個のアキュポイントキャップが同梱されています。長期間使用し、すり切れたら取り換えてください。取り換え方法は次のとおりです。

スペアのアキュポイントキャップをお買い求めになる場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。

- 1 アキュポイントキャップをしっかりとつまんで垂直に引き上げる
- 2 新しいアキュポイントキャップを切り込みにあわせてアキュポイントⅡにはめる

データのバックアップについて

重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。バックアップとはハードディスクやソフトウェアの故障などでファイルが使用できなくなったときのために、あらかじめファイルをフロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどにコピーしておくことです。本製品は次のような場合、スタンバイ機能または休止状態が無効になり、本体内の記憶装置が変化し、消失するおそれがあります。

- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- 長期間使っていなかったために、バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）の充電量がなくなったとき
- 故障、修理、バッテリー交換のとき
- バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失については、ハードディスクやフロッピーディスクなどに保存した内容の損害については当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

持ち運ぶとき

持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを守ってください。

- 電源は必ず切ってください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
電源を切った後も、Disk  LEDが点灯中は動かさないでください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。
やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。また、日の当たる自動車内に置かないでください。
故障の原因になります。
- 持ち運ぶときはディスプレイを閉じてください。

消耗品について

次の部品は消耗品です。

- バッテリーパック（リチウムイオン電池）
長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリーパック（PABAS009）と交換してください。
- 時計用バッテリー（交換は有償です）
- アクュポイントキャップ（交換は同梱されているものを使用してください）
消耗した場合は、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。

仕様について

本製品の仕様は国内向けです。

国外で製品を使用する場合は、電源に合った電源コードをお買い求めください。

■ ACアダプタの仕様

入力	AC100V～240V、0.7～0.4A、50/60Hz
出力	15V、2A

付録

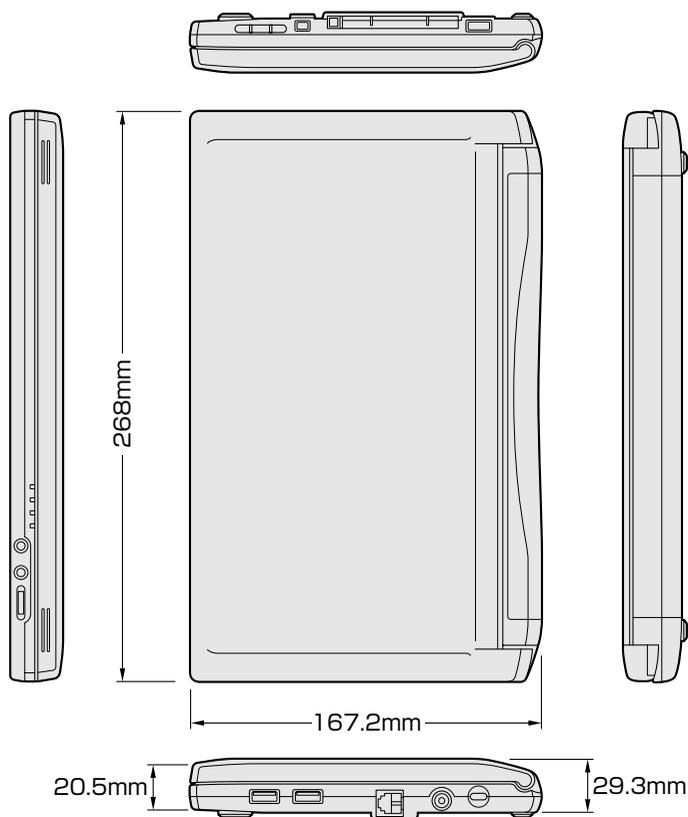
1	本製品の仕様	176
2	各インターフェースの仕様.....	183

1

本製品の仕様

1 外形寸法図

*数値は突起部を含みません。



2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。

モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。



- 本製品のディスプレイは 640 x 480 ドットのモードを選択しても、SVGA のタイミングで動作しています。そのため、VGA 専用の CRT ディスプレイとの同時表示はできません。同時表示をする場合は、SVGA の CRT ディスプレイを使用してください。

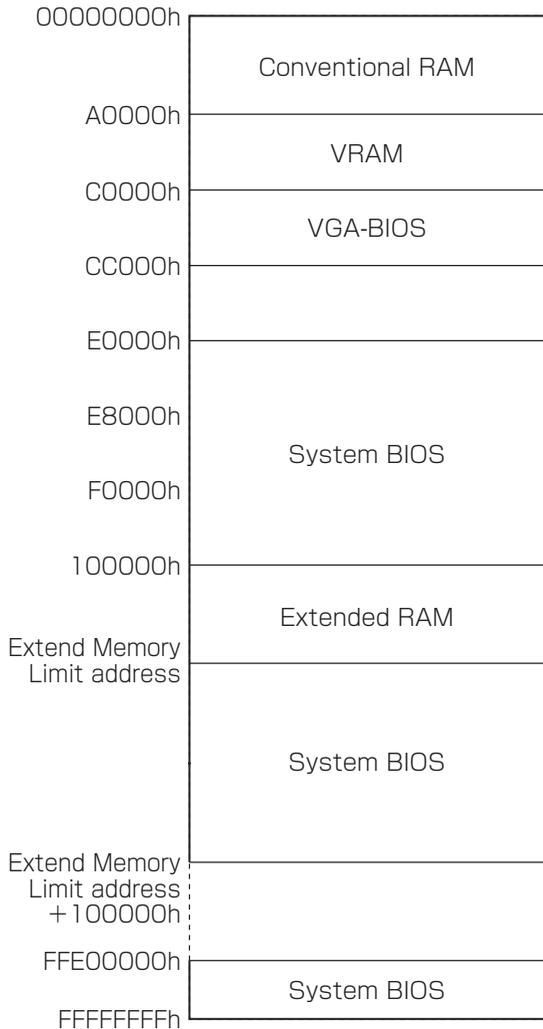
ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	LCD/CRTの表示	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1		40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字	8 x 8	16/256K	
0*,1*		40 x 25字	8 x 14	16/256K	
2*,3*		80 x 25字	8 x 14	16/256K	
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
2+,3+		80 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
4.5	VGA	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	70
6	グラフィックス	640 x 200ドット	8 x 8	2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	60
7+		80 x 25字	8(9) x 16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	70
E		640 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10		640 x 350ドット	8 x 14	16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	
12		640 x 480ドット	8 x 16	16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	LCD/CRTの表示	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	—	256/256K	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	256/256K	
—		1024 x 768ドット	—	256/256K*1	
—		1280 x 600ドット	—	256/256K	
—		1280 x 1024ドット	—	256/256K*1	
—		1600 x 1200ドット	—	256/256K*1	60/75
—		640 x 480ドット	—	64K/64K	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	64K/64K	
—		1024 x 768ドット	—	64K/64K*1	
—		1280 x 600ドット	—	64K/64K	
—		1280 x 1024ドット	—	64K/64K*1	
—		1600 x 1200ドット	—	64K/64K*1	60/75
—		640 x 480ドット	—	16M/16M	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	16M/16M	
—		1024 x 768ドット	—	16M/16M*1	60/75
—		1280 x 600ドット	—	16M/16M	60
—		1280 x 1024ドット	—	16M/16M*1	

*1：LCDで表示する場合、実際の画面（1280 × 600）内に、仮想スクリーン表示します。

3 メモリマップ

本製品では、メモリを次のように使用しています。



4 I/Oポートマップ

本製品を、標準のハードウェア構成で使用した場合のマップです。

000h	DMAコントローラ #1
020h	IRQコントローラ #1
040h	タイマ
060h	KBC
070h	NMIマスキレジスタ

	RTC
080h	DMAページレジスタ
0A0h	IRQコントローラ #2
0C0h	DMAコントローラ #2
0F0h	NDP
100h	モデム
110h	なし
178h	
1F0h	
1F8h	HDC
200h	なし
220h	
240h	
260h	
278h	なし
280h	
2A0h	
2E8h	
2F0h	
2F8h	
300h	
376h	
378h	
380h	
3B0h	VGA
3BCh	
3C0h	VGA
3E0h	東芝PCカードインタフェースコントローラ
3E8h	
3F0h	
3F6h	HDC
400h	
480h	DMA Hiページレジスタ
4A0h	
530h	
538h	
604h	
60Ch	
E80h	
E88h	
F40h	
F48h	

5 DMA 使用リソース

DMA		DMAC
0	なし	1
1	なし	
2	なし	
3	なし	
4	Cascade for CTRL1	2
5	なし	
6	なし	
7	なし	

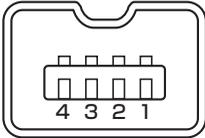
6 IRQ使用リソース

IRQ		PIC
0	タイマ (PIT)	#1
1	キーボード (KBC)	
2	IRQ8~15 PIC #2入力	
3	PCカード	
4	サウンド、モデム、PCカード、USB、IEEE1394共用	
5	PCカード、IEEE1394、USB共用	
6	PCカード、USB、IEEE1394共用	
7	PCカード、USB、IEEE1394共用	
8	RTC	#2
9	ACPI	
10	PCカード、USB、サウンド、モデム、IEEE1394共用	
11	VGAコントローラ	
12	マウス	
13	NDP	
14	HDC	
15	空き	

2

各インタフェースの仕様

1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース

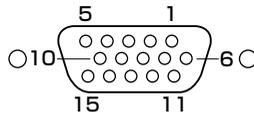
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号)	I/O
2	TPB+	ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号)	I/O
3	TPA-	データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号)	I/O
4	TPA+	データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号)	I/O
コネクタ図			
			

信号方向 (I) : パソコン本体への入力
信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

2 RGB インタフェース (ミニRGB ケーブル)

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	0
2	CGV	緑色ビデオ信号	0
3	CBV	青色ビデオ信号	0
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	0
14	-CVSYNC	垂直同期信号	0
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

コネクタ図



高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

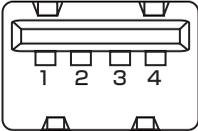
信号方向 (I)：パソコン本体への入力

信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

3 USBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グラウンド	

コネクタ図



信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

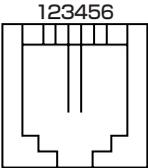
信号方向 (I)：パソコン本体への入力

信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

4 モデムインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-	ノーコンタクト	
2	-	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	-	ノーコンタクト	
6	-	ノーコンタクト	

コネクタ図



信号方向 (I)：パソコン本体への入力

信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



省電力設定について ⇨ 「5章 3 省電力ユーティリティを使う」

FCC information

Product name : Libretto L1/060TNMM, Libretto L1/060TNCM

Model number : PAL1060TNMM, PAL1060TNCM

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING: *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by Toshiba is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or external monitor port, USB port, IEEE1394 port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by Toshiba or parties authorized by Toshiba could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

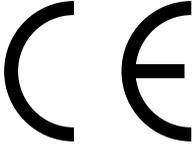
1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : Toshiba America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA



EU Declaration of Conformity
EU Übereinstimmungserklärung
Déclaration de conformité UE
Declaración de conformidad de la UE
Dichiarazione di conformità UE
EU Försäkran om överensstämmelse

Toshiba declares, that the product:

PAL1060TNMM, PAL1060TNCM conforms to the following Standards:

Toshiba erklärt, daß das Produkt:

PAL1060TNMM, PAL1060TNCM folgenden Normen entspricht:

Toshiba déclarent que le produit cité ci-dessous:

PAL1060TNMM, PAL1060TNCM est conforme aux normes suivantes:

Toshiba declaran que el producto:

PAL1060TNMM, PAL1060TNCM cumple los siguientes estándares:

Toshiba dichiara, che il prodotto:

PAL1060TNMM, PAL1060TNCM, é conforme alle seguenti norme:

Toshiba intygar att produkten:

PAL1060TNMM, PAL1060TNCM överensstämmer med följande normer:

Supplementary Information: “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC and the EMC Directive 89/336/EEC.”

Weitere Informationen: “Das Produkt entspricht den Anforderungen der Niederspannungs-Richtlinie 73/23/EG und der EMC Richtlinie 89/336/EG.”

Informations complémentaires: “Ce produit est conforme aux exigences de la directive sur les basses tensions 73/23/CEE et de la directive EMC 89/336/CEE.”

Información complementaria: “El Producto cumple los requisitos de baja tensión de la Directiva 73/23/CEE y la Directiva EMC 89/336/CEE.”

Ulteriori informazioni: “Il prodotto é conforme ai requisiti della direttiva sulla bassa tensione 73/23/EG e la direttiva EMC 89/336/EG.”

Ytterligare information: “Produkten uppfyller kraven enligt lägsäpänningsdirektiver 73/23/EEC och EMC-direktiv 89/336/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is Toshiba Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項をお守りください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、クウェート、ギリシャ、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2001年5月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域ではご使用になれません。ご注意ください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムをご購入ください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。

上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。



- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、内蔵モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- 内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。



詳細について ⇨ 《オンラインマニュアル》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to conform with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your computer's user's guide.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can. In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by Toshiba Corporation or an authorized representative of Toshiba Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1** NOTICE: The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
- Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your computer's user's guide.

NOTICE: The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA: 1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the country selection is set to Australia.

The use of other country setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in your modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the country is correctly set, enter the command AT+I which displays the currently active setting.

To set the country permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT+TE=1  
AT+I33=1  
AT+F  
AT+W  
AT+TE=0  
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia country setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.

- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
 - b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS6=4(Blind dial delay, factory default value of 4 is recommended)
 - ATS7=less than 90 (Time to wait to carrier after dialing)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal. Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as FaxAbility.

NOTE THAT FAULT CALLOUTS CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

さくいん

(記号)

キーを使ったショートカットキー
..... 30

(A)

AC アダプタの仕様 174

Alt キー 26

(B)

BackSpace キー 27

Battery LED 14, 116

Break キー 27

(C)

CapsLock キー 26

CRT ディスプレイの接続 160

Ctrl キー 26

(D)

DC IN LED 14

Del キー 27

Disk LED 14, 17

(E)

End キー 27

Enter キー 27

Esc キー 26

Eメール 60

(F)

Fn キー 27, 28

(H)

Home キー 27

HTML 形式 66

(I)

i.LINK コネクタ 12, 146

i.LINK 対応機器の取り付け 156

i.LINK 対応機器の取りはずし ... 157

i.LINK によるネットワーク接続
..... 157

IEEE1394 コネクタ 12, 146

IME ツールバー 31

Ins キー 27

Internet Explorer 34

Internet Explorer 画面 34

(L)

Libretto クイックスタート 102

(O)

Outlook Express 62

Outlook Express を起動する ... 62

Outlook Express を終了する ... 99

(P)

Pause キー 27

PC カードスロット 12, 146

PC カードの取り付け 151

PC カードの取りはずし 152

PgDn キー 27

PgUp キー 27

Power LED 14

PrtSc キー 27

(S)

Shift キー	26, 27
Space キー	26
SysRq キー	27

(T)

Tab キー	26
TFT 方式のカラー液晶ディスプレイ	15

(U)

URL	37
USB コネクタ	12, 147
USB 対応機器の取り付け	153
USB 対応機器の取りはずし	154

(W)

Win キー	26
--------------	----

(ア)

アキュポイントII	10
アキュポイントIIの取り扱い	170
アドレス	37
アドレス帳	85
アドレス帳を修正する	88
アドレス帳を使って宛先を入力する	89
アドレスバー	35
アドレスを登録する	85, 86
アプリケーションキー	27
アプリケーションの削除	108
アプリケーションの追加	106
アロー状態	29

(イ)

以前に表示したホームページを 表示する	53
インターネットメール	60

(エ)

液晶ディスプレイの取り扱い	171
---------------------	-----

(オ)

オーバーレイキー	27
お気に入り	37
【お気に入り】 からホームページを 表示する	40
【お気に入り】 に登録する	38
【お気に入り】 を整理する	41
音楽の録音レベルを調節する	21
音声の録音レベルを調節する	21
【音量】 アイコン	19
音量を調節する	19

(カ)

解像度を変える	16
カタカナ／ひらがなキー	27
画面のお手入れ	171
漢字キー	26

(キ)

キーフロッピーディスクの作成	132
キーボード	10, 26
キーボードの取り扱い	171
起動したときに表示するページを 変更する	43
キャップの取り換え	172
休止状態	137
【休止状態】 タブ	125

(コ)

コントロールボタン 10

(サ)

再起動 139

サイドライト用FL管 171

(シ)

システムインジケータ 10, 14

システムスピーカ 22

受信メールを見る 75

省電力モードの詳細設定 126

省電力ユーティリティ 122

省電力ユーティリティのヘルプ .. 128

署名を入れる 91

消耗品 174

(ス)

数字ロック状態 29

スクリーンセーバーパスワードの登録
..... 134

スクリーンセーバーパスワードの入力
..... 135

スクロールボタン 10

スタートページ 43

スタートページに戻る 44

スタートページを変更する 43

スタンバイ 136

ステータスバー 34

スピーカ 11

(セ)

セキュリティロック・スロット ... 11

全角 31

(ソ)

増設メモリスロット 13, 147

増設メモリの取り付け 166

増設メモリの取りはずし 168

(タ)

ダウンロードする 56

(ツ)

ツールバー 34, 68

通風孔 10

(テ)

ディスプレイ 10, 15

テキスト形式 66

[デバイス設定] タブ 125

電源コードの取り扱い 170

電源コネクタ 11

電源スイッチ 10

[電源設定] タブ 122

電子メール 60

添付されたファイルを開く 96

(ト)

東芝 HW セットアップ 130

東芝ネットメニュー 55

特殊機能キー 30

時計用バッテリー 118

ドライバをインストールする 148

(ナ)

内蔵マイク 10

内蔵モデム 23

内蔵モデム用地域選択ユーティリティ
..... 23

(二)

日本語入力システム MS-IME 31

(ノ)

ノーマル 123

(ハ)

ハードディスクドライブ 17

ハードディスクドライブに関する表示
..... 17

ハイパワー 123

パスワードセキュリティ機能 129

パスワードとして使用できる文字
..... 129

パソコン本体の取り扱い 170

バックアップ 173

バッテリー駆動での使用時間 120

バッテリー充電量が減少したとき
..... 117

バッテリー充電量を確認する 116

バッテリーの充電時間 119

バッテリーの充電方法 119

バッテリーパック 11, 114

バッテリーパックの取り付け/取りはずし
..... 121

パネルスイッチ機能 141

半角 31

半/全キー 26

(ヒ)

表示可能色数 15

(フ)

ファンクションキー 26

プラグアンドプレイ 148

フルパワー 123

(ヘ)

ヘッドホン出力端子 12, 159

ヘッドホンの接続 159

ヘルプ 104

変換キー 27

(ホ)

ホームページの画像を壁紙に設定する
..... 50

ホームページの画像を保存する ... 48

ホームページを検索する 36

ホームページを保存する 45

ポインティング装置の取り扱い.. 172

ホットインサージョン 149

ボリュームダイヤル 10, 19

(マ)

マイク入力端子 12, 158

マイクロホンの接続 158

マスタ音量 20

(ミ)

ミニRGBコネクタ 12, 146

(ム)

無変換キー 26

(メ)

メール 60

メールサーバ 61

メールで使える文字 91

メールにファイルを添付する 94

メールを削除する 80

メールを作成する 70

メールを受信する 74

メールを整理する	82
メールを送信する	74
メールを転送する	79
メールを分類する	83
メールを返信する	77
メニューバー	35, 68

(モ)

文字キー	28
文字化け	66
モジュラージャック	11
持ち運ぶとき	173

(ヤ)

矢印キー	27
------------	----

(ユ)

ユーザパスワードの削除	131
ユーザパスワードの登録	130
ユーザパスワードの入力	133
ユーザパスワードを 忘れてしまった場合	133

(ヨ)

よく見るページを登録する	37
--------------------	----

(ロ)

ロングライフ	123
--------------	-----

